

桃山文化

名称と時期 1. \_\_\_\_\_文化 16世紀後半 織豊政権期 ※桃山=伏見城跡

特色 ①仏教色が薄い <例>城の文化、町衆の文化 ※延暦寺など大寺院の衰退  
②大名・豪商中心 → 雄大・豪華な文化

建築 城郭…大名の居館・政庁 2. \_\_\_\_\_は権力の象徴 内部は書院造  
※主流は3山城から4平山城へ…人工的防備(石垣、濠、土塁など)  
<例>二条城・松本城・犬山城(現存最古の天守閣)・5姫路城(白鷺城)など…現存  
6聚楽第(秀吉)→(移築?) 7大徳寺唐門、8西本願寺飛雲閣  
9伏見城(秀吉)→(移築) 10都久夫須麻神社本殿、西本願寺唐門(?)  
その他 西本願寺書院 醍醐寺三宝院書院・庭園、11妙喜庵待庵

絵画 12. \_\_\_\_\_(障屏画)…屏風・襖・障子に描かれた絵画 13狩野派が中心  
14. \_\_\_\_\_…金碧(画面に金箔)や濃彩(群青・緑青など厚塗り)の画法  
<例>15. \_\_\_\_\_「16唐獅子図屏風」「17檜図屏風」  
18狩野山楽「牡丹図」 19長谷川等伯「20智積院襖絵」(→長谷川派)  
水墨画 <例>21. \_\_\_\_\_「22松林図屏風」 23狩野 \_\_\_\_\_「24松鷹図」  
25. \_\_\_\_\_…「26山水図屏風」「牡丹図」「桜花図」 →海北派  
風俗画…庶民生活に題材 狩野派が多い  
<例>27洛中洛外図屏風(上杉本) (28狩野永徳) 29花下遊楽図屏風(狩野長信)  
高雄観楓図屏風(狩野秀頼) 豊国祭礼図屏風(狩野内膳)

工芸 30欄間(鴨居と天井の間の格子)彫刻 31透し彫 32高台寺蒔絵…秀吉夫妻遺愛の調度(金蒔絵装飾品)

芸能 33出雲阿国…34かぶき踊り(「35. \_\_\_\_\_」)を始める →36女歌舞伎の流行へ  
……出雲大社?の巫女 …… 女性の男装など特異な風俗で踊る

37隆達小歌…38高三隆達(堺の薬商)が節をつけた小歌 伴奏は扇拍子や尺八

39. \_\_\_\_\_の登場…胴に猫皮を張る 日本特有の楽器 三線(琉球伝来)を改良  
→伴奏 <例>40浄瑠璃節…語り物 →41人形浄瑠璃へ(人形操りとの組み合わせ)

茶道 42北野大茶会[1587]…北野天満宮 秀吉、身分・貧富の別なく参加 “黄金の茶室”

日本陶器の再評価 <例>瓦職人長次郎を指導 →43楽焼[京都]の発祥

44. \_\_\_\_\_( \_\_\_\_\_ )…堺の豪商 紹鷗に師事 “三宗匠”(45今井宗久・46津田宗及)  
47侘び茶(簡素・閑寂)と草庵茶室を完成 信長・秀吉に仕える(のち切腹) 48千家の祖

……<例>49. \_\_\_\_\_  
→弟子に、50織田有楽斎(信長の弟 茶室 如庵)・53古田織部ら

生活の { (衣) 男は肩衣・袴、女は腰巻・打掛 51. \_\_\_\_\_の流行 52染織の一般化 男女とも結髪  
変化 { (食) 1日3食・間食、味噌・醤油の出現 (住) 二階建・53瓦屋根の普及

## 朝鮮文化の輸入 ←秀吉の朝鮮侵略

- ・ 54 \_\_\_\_\_ の種子→国内栽培の発達
  - ・ 55 活字印刷術→書籍の出版 <例> 56 慶長勅版 (57 後陽成)
  - ・ 58 朝鮮人陶工を連行→西国各地で 60 お国焼 の発達
- <例> 61 \_\_\_\_\_ (鍋島)←陶工 62 李参平 別名 63 伊万里焼 (毛利)←李敬  
65 薩摩焼 (島津)、平戸焼 (松浦)、高取焼 (黒田)、上野焼 (細川) など

## 南蛮文化

- 美術 「66 南蛮屏風」「世界図屏風」「秦西王侯騎馬図屏風」…日本人画家による 油絵・銅版画の技法
- 学問 天文学・地理学・医学などを伝える
- 教育 67 セミナリオ…神学校 安土など 68 コレジオ…宣教師養成大学 豊後府内など
- 69 \_\_\_\_\_ …仏教寺院風に建てられた教会 山口・京都など
- 活字印刷 70 ヴァリニャーニが伝える → 72 \_\_\_\_\_ (キリシタン版) の発行
- <例> 『73 天草版平家物語』、『天草版伊曾保物語』(イソップ物語)、『日葡辞書』  
『どちりな・きりしたん』(教義書)、『ぎゃ・ど・ぺかどる』(宗教書)
- 風俗など 喫茶、南蛮風の衣食 南蛮語 <例> カステラ・カップ・カルタ・コンペイトウ・タバコ

1603年(慶長8)、京都において出雲のお国と称する女性芸能者が、当時横行していた かぶき者と呼ばれる意気を持った若者たちの、茶屋女に通う姿に男装して扮し、流行歌や踊をまじえて演じ、歌舞伎踊として人気を博した。これが歌舞伎という芸能の始まりとなる。

(平凡社『世界大百科事典』)

【正誤問題に挑戦】<センター1990追試験、1991本試験より>

- X. 茶の湯を大成した千利休は京都の富裕な町人で、彼の作った茶室は書院風の建物として知られている。
- Y. 朝鮮出兵の際に大名たちが朝鮮の陶工を連れ帰り、のちの薩摩焼や有田焼などの基礎をつくった。

桃山文化

名称と時期 1 桃山 文化 16世紀後半 織豊政権期 ※桃山=伏見城跡

特色 ①仏教色が薄い <例>城の文化、町衆の文化 ※延暦寺など大寺院の衰退  
②大名・豪商中心 → 雄大・豪華な文化

建築 城郭…大名の居館・政庁 2 天守閣 は権力の象徴 内部は書院造  
※主流は3山城から平山城・4平城へ…人工的防備(石垣、濠、土塁など)  
<例>二条城・松本城・犬山城(現存最古の天守閣)・5姫路城(白鷺城)など…現存  
6聚楽第(秀吉)→(移築?) 7大徳寺唐門、8西本願寺飛雲閣  
9伏見城(秀吉)→(移築) 10都久夫須麻神社本殿、西本願寺唐門(?)  
その他 西本願寺書院 醍醐寺三宝院書院・庭園、11妙喜庵待庵

絵画 12障壁画 (障屏画)…屏風・襖・障子に描かれた絵画 13狩野派が中心  
14濃絵 …金碧(画面に金箔)や濃彩(群青・緑青など厚塗り)の画法  
<例>15狩野永徳 「16唐獅子図屏風」「17檜図屏風」  
18狩野山楽「牡丹図」 19長谷川等伯 「20智積院襖絵」(→長谷川派)  
水墨画 <例>21長谷川等伯 「22松林図屏風」 23狩野山楽 「24松鷹図」  
25海北友松 …「26山水図屏風」「牡丹図」「桜花図」 →海北派  
風俗画…庶民生活に題材 狩野派が多い  
<例>27洛中洛外図屏風(上杉本) (28狩野永徳) 29花下遊楽図屏風(狩野長信)  
高雄観楓図屏風(狩野秀頼) 豊国祭礼図屏風(狩野内膳)

工芸 30欄間(鴨居と天井の間の格子)彫刻 31透し彫 32高台寺蒔絵…秀吉夫妻遺愛の調度(金蒔絵装飾品)

芸能 33出雲阿国…34かぶき踊り(「35阿国歌舞伎」)を始める →36女歌舞伎の流行へ  
…出雲大社の巫女? …女性の男装など特異な風俗で踊る

37隆達小歌…38高三隆達(堺の薬商)が節をつけた小歌 伴奏は扇拍子や尺八

39三味線 の登場…胴に猫皮を張る 日本特有の楽器 三線(琉球伝来)を改良  
→伴奏 <例>40浄瑠璃節…語り物 →41人形浄瑠璃へ(人形操りとの組み合わせ)

茶道 42北野大茶会[1587]…北野天満宮 秀吉、身分・貧富の別なく参加 “黄金の茶室”

日本陶器の再評価 <例>瓦職人長次郎を指導 →43楽焼[京都]の発祥

44千利休 (宗易)…堺の豪商 紹鷗に師事 “三宗匠”(45今井宗久・46津田宗及)  
47侘び茶(簡素・閑寂)と草庵茶室を完成 信長・秀吉に仕える(のち切腹) 48千家の祖

…<例>49妙喜庵待庵  
→弟子に、50織田有楽斎(信長の弟 茶室 如庵)・53古田織部ら

生活の { (衣) 男は肩衣・袴、女は腰巻・打掛 51小袖 の流行 52染織の一般化 男女とも結髪  
変化 { (食) 1日3食・間食、味噌・醤油の出現 (住) 二階建・53瓦屋根の普及

## 朝鮮文化の輸入 ←秀吉の朝鮮侵略

- ・ <sup>54</sup>木綿の種子→国内栽培の発達 ・ <sup>55</sup>活字印刷術→書籍の出版 <例> <sup>56</sup>慶長勅版 (<sup>57</sup>後陽成)
  - ・ <sup>58</sup>朝鮮人陶工を連行→西国各地で<sup>60</sup>お国焼の発達
- <例> <sup>61</sup>有田焼 (鍋島)←陶工<sup>62</sup>李参平 別名 <sup>63</sup>伊万里焼 (いまり) <sup>64</sup>萩焼 (毛利)←李敬  
<sup>65</sup>薩摩焼 (島津)、平戸焼 (松浦)、高取焼 (黒田)、上野焼 (細川) など

## 南蛮文化

美術 「<sup>66</sup>南蛮屏風」「世界図屏風」「<sup>たいせい</sup>秦西王侯騎馬図屏風」…日本人画家による 油絵・銅版画の技法

学問 天文学・地理学・医学などを伝える

教育 <sup>67</sup>セミナリオ…神学校 安土など <sup>68</sup>コレジオ…宣教師養成大学 豊後府内など

<sup>69</sup>南蛮寺…仏教寺院風に建てられた教会 山口・京都など

活字印刷 <sup>70</sup>ヴァリニャーニが伝える →<sup>72</sup>天草版 (キリシタン版)の発行

<例> 『<sup>73</sup>天草版平家物語』、『天草版伊曾保物語』(イソップ物語)、『<sup>にっぽ</sup>日葡辞書』

『どちりな・きりしたん』(教義書)、『ぎゃ・ど・ぺかどる』(宗教書)

風俗など 喫茶、南蛮風の衣食 南蛮語 <例>カステラ・カップ・カルタ・コンペイトウ・タバコ

1603年(慶長8)、京都において出雲のお国と称する女性芸能者が、当時横行していたかぶき者と呼ばれる意気がった若者たちの、茶屋女に通う姿に男装して扮し、流行歌や踊をまじえて演じ、歌舞伎踊として人気を博した。これが歌舞伎という芸能の始まりとなる。

(平凡社『世界大百科事典』)

【正誤問題に挑戦】<センター1990追試験、1991本試験より>

- X. 茶の湯を大成した千利休は京都の富裕な町人で、彼の作った茶室は書院風の建物として知られている。
- Y. 朝鮮出兵の際に大名たちが朝鮮の陶工を連れ帰り、のちの薩摩焼や有田焼などの基礎をつくった。 ○